

## D. A. Tsenov. Academy of Economics—Svishtov における日本語コース

作成者 池田幸恵

(青年海外協力隊 H9 年度 2 次隊)

作成日 1999 年 6 月 20 日

### 1・D. A. Tsenov. Academy of Economics—Svishtov について

1936 年にブルガリアにおける初の私立高等貿易学校 (Higher Trade School) として創立された。以来、その名称を幾度か変えながらも経済・経営系の専門学校として存続し、現在は大学としての位置付けがなされている。学部は 5 つに分かれており、内訳は会計、財政、商学、経営、教養学部となっている。学生数約 1 万名、教員数は約 200 名である。

外国語の学習は盛んで、学生は学部・学科にもよるが、1 ないし 2 カ国語を選択外国語として履修することになっている。特に経営学部・国際経済関係学科の学生は外国語が必修で、第 1、第 2 外国語をそれぞれ最低 1 科目ずつ履修しなければならない、学習期間はいずれも 4 年間である。それぞれの選択外国語は以下の通りである。

- ・第 1 外国語：英語、フランス語、ドイツ語
- ・第 2 外国語：英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、日本語

日本語コースが正式に単位科目として登録されたのは 1996 年度前期である。経営学部・国際経済関係学科の第二外国語として導入された。但し、1995 年度から既に日本語教育は始まっており、当時の 1 年生 4 名が首都ソフィアから月に 1 度出張講義に来るブルガリア人教師の下で学習を始めていた。1996 年度の正式科目への格上げと同時に日本人教師 (青年海外協力隊員) が 1 名派遣された。それ以来、日本人教師はスヴィシトフ常駐・常勤で、全クラスの授業 (導入から定着まで一重点的に会話) を担当し、非常勤のブルガリア人教師が月 1 回、ソフィアから補完・集中講義 (重点的に文法) へやってくるという体制が出来上がった。

### 2・学習の条件

#### ①学習者の背景

学習者は経営学部・国際経済関係学科の学生である。学生の年齢は平均して 20 歳前後。日本語は選択第 2 外国語であり、第 1 外国語として英語、ドイツ語を学習している学生が多い。選択第 2 外国語として日本語を履修登録できるのは国際経済関係学科の 1 年生のみであるが、正規のクラスの他に学年・学部を問わない (単位にならない) 公開講座も設けている。

### 3・学習者と環境

#### ①学生数

正規クラス	1年生：5名（女子4名・男子1名）
	2年生：3名（女子1名・男子2名）
	3年生：7名（女子4名・男子3名）
	4年生：5名（女子3名・男子2名）－6月に卒業
公開クラス	約7名

#### ②教師

ブルガリア人教師（非常勤）	教師名：ボイカ・ツィゴヴァ
日本人教師（常勤）	青年海外協力隊（現在現隊員で2人目）

#### ③教室

正規／公開クラスともにLL教室。（1999年1月、ODAによる援助のひとつ、「大阪万博基金プログラム」によりLL教室が設置され、日本語クラス専用の教室となった。）

### 4・学習段階と到達目標（正規クラス）

#### ①年間学習時間（推計）

外国語に関してはよく大学のシステムが変わる。現在の設定では1・2年生が週4コマ、3・4年生が週3コマ（1コマ75分）である。日本人教師は1・2年生週3コマ、3・4年生週2コマ担当、残りの1コマずつをブルガリア人教師による約1ヶ月に1度の集中授業で補っている。システムがよく変わることから、ここに記入する推計はほんとうにただの目安でしかないが、基本は以下の通りである。

##### <1・2年生>

前期 37.5時間（約10週間×3.75時間）

後期 45.0時間（約12週間×3.75時間）

計 82.5時間

##### <3・4年生>

前期 50.0時間（約10週間×5.0時間）

後期 60.0時間（約12週間×5.0時間）

計 110.0時間

## ②学習段階と目標言語技能

1 年生前期 : 入門期

(聞く・話す)

教師の発話する短い語句が聞き取れる。標準的な発音に近い音で語句が言える。教室内での応答、日常の挨拶、自己紹介など。

(読む・書く)

平仮名と片仮名の読み書きができる。語彙 200 語。

1 年生後期～4 年生 : 初級

(聞く・話す)

簡単な応答、説明ができる。相手に質問、依頼ができる。

買い物、案内、説明、注文、勧誘など。

(読む・書く)

漢字の特性や決まり事などを理解する。平易な漢字仮名混じり文の読み書きができる。語彙 1300 語、漢字 250 字。

\*到達目標が教師任せなため、授業は各学年の理解度、定着度に合わせて進められており、「4年間で初級レベルを終了」という目標のみ提示している。

## ③教科書

正規クラス： 新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ－漢字仮名混じり版

(今後「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」に変わる可能性有。)

\*学習者は教科書を持っていない。授業の都度教師が教科書を人数分コピーして配布している。

## 5・当大学日本語コースの今後の展望

当大学の日本語は、あくまでも「経済大学で選択できる第2外国語の一つ」である。ここでの日本語コースは、日本語を通じて「日本を知る」ことが目的であり、日本語は日本を理解する手段の一つと言って差し支えない。そのため日本に住み、日本語を話すネイティブ教師の存在は大きい。今のところ青年海外協力隊の派遣なしでは持続不可能なこのコース、歴史も浅く、やっと軌道に乗り始めたばかりである。大学側の要望がある限り、今後も現地のブルガリア人教師と協力し合い、存続し続けていくことが期待される。